

2018年4月20日

筑波大学 学長 殿

一般財団法人 山根奨学基金
代表理事 飯野 正子

奨学生推薦依頼について

陽春の候、貴校ますますご清栄のことと存じます。このたび当財団法人では 2018 年度奨学生を募集いたしますので、貴校にも候補者（1名）をご推薦いただきたく、書状によりお願いする次第でございます。

山根奨学基金は、日本初の女性外交官として大きな期待をかけられていたにもかかわらず、帰任の途上航空機事故の犠牲となられた山根敏子さんを記念して、国際社会に貢献する意思と情熱を持つ女子学生を育成し、勉学の一助とすることを目的として 1960 年に設立されたものです。（詳細についてはホームページ、同封書類等をご参照ください。）

この奨学金の趣旨をご理解いただき、下記の要領で奨学生候補者をご推薦いただければ幸いに存じます。

尚、本財団は本年度をもって事業を終了することを検討しております。詳細は決まり次第改めてご連絡いたします。

記

1. 奨学生資格
 - 1) 学部学生（3年生以上）または、大学院生で、同封資料の趣旨に合うと認められる者。（単に経済的困窮の理由では採用しません。）
 - 2) 過去に当財団の奨学金を受給した学生は、再応募できません。但し、応募の結果不合格となった場合は、再応募が可能です。
 - 3) 所属大学の奨学金関連部署を経由して応募して下さい。
2. 給付奨学金 5名を採用し年額 30万円を支給（2回に分けて支給）
3. 応募締切 2018年6月29日（金） 書類必着
4. 提出書類
 - （1）奨学生願書（所定用紙）
 - （2）推薦書（学部長、またはこれに代わる教員のもの）
 - （3）学業成績証明書（大学院生の場合は、学部の成績証明書も含む）
5. 選 考 面接審査により 5名を選考する。
日時：2018年7月28日（土）午後
方法：書類選考、面接
※時間・場所については、改めてご連絡いたします。
（審査の結果は随時、該当者に送付します）



以上

応募書類送付先・連絡先：山根奨学基金 事務局
〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 津田塾大学内
TEL：042-342-5111 担当：山崎

山根奨学基金のご案内

日本初の女性外交官として、わが国のみならず広く諸外国の人々からも、その将来に大きな期待をかけられていた山根敏子さんが、惜しくも飛行機事故の犠牲となられて50余年になります。その山根敏子さんを記念して設立された山根奨学基金も、2010年には50周年を迎えました。

この奨学基金は、山根さんの遺志を継ぐ女子学生のうち、特に国際問題に関心を持つと同時に将来、世界人類の平和と幸福に貢献するため、国際社会において活躍する意思と情熱を持つ女性を育成し、その勉学の一助とすることを目的として設立されたものであります。

一般財団法人山根奨学基金概要 (2018年3月31日現在)

設立(認可)年月日 1960年8月18日

目的 一般有為の女子学生のうち、特に国際関係を専念し、将来官途にあると、民間にあるとを問わず、世界人類の平和と幸福を増進するため、国際場裡において活躍し、もって故山根敏子氏の遺志を継承するに足る人材を育成することを目的とする。

事業 (1) 学資金の給与 (2) 学資金を受ける学生の指導
(3) その他目的を達成するために必要な事業

設立時の資産総額 金 1,137,122 円

2017年度末基本財産総額 金 10,000,000 円

給与奨学金合計額 金 41,298,000 円 (2017年度末現在)

年間事業費 金 1,500,000 円
(2017年度年間1人あたり 30万円×5名)

法人役員 代表理事 飯野 正子 他 理事6 監事2 評議員6

大学別奨学生数 1961年～2017年度

津田塾大学	103名	国際基督教大学	40名	上智大学	22名
日本女子大学	17名	東京女子大学	16名	東京大学	11名
東京外国語大学	9名	慶應義塾大学	8名	東京女子医科大学	6名
早稲田大学	9名	お茶の水女子大学	5名	東京教育大学	2名
明治大学	1名	聖心女子大学	1名	筑波大学	2名
中央大学	1名	一橋大学	1名	計	254名

奨学生の主な進路

外務省 総務省 国連 最高裁判所 厚生労働省 国際交流基金
(財)横浜市女性協会 東京大学 東京外国語大学 広島大学 琉球大学
福岡教育大学 広島市立大学 都留文科大学 ケンブリッジ大学 津田塾大学
国際基督教大学 明治大学 法政大学 神奈川大学 東洋学園大学
東京女学館大学 東京情報大学 敬愛大学 名古屋商科大学 NHK
サイマル・インターナショナル 東京日仏学院 白水社 日本航空 等

一般財団法人山根奨学基金
奨学生の募集および選考に関する内規

奨学生の募集および選考は下記の手続きによって行う。

〈選考委員会〉

第1条 代表理事の指名により、年度ごとに代表理事を委員長とし、理事・監事・評議員全員で選考委員会を構成する。

〈奨学生の資格・募集〉

第2条 本基金の奨学生となる者は、原則として東京都内の大学・大学院に在学する、学業・人物ともに優秀な女子学生であって、国際的に活躍することを希望し、かつ本基金設立の趣旨に合致すると認められた者であることを要する。

第3条 奨学金は年額300,000円とし、給付期間は奨学生に採用した年度内とする。

第4条 奨学生の募集は下記の要領で行なう。

1. 募集は、奨学生募集要項に沿って、選考委員会が指定する大学に奨学生志望者の推薦を依頼することによって行う。〈4月〉
2. 推薦を受けた者は、下記の書類を在学校の学長を経て期日までに一括提出する。
 - (1) 奨学生願書
 - (2) 学部長、またはこれに代わる教員の推薦書
 - (3) 成績証明書〈大学院生の場合は、学部の成績証明書も含む〉

〈選考手続き〉

第5条 奨学生志望者に対してグループ面接を行い、志望者同士の討論および選考委員との質疑応答を通して、(1) 学業成績、(2) 奨学金志望理由、(3) 本基金趣旨の実現に向けての志望者の将来性、(4) 思考力、コミュニケーション能力、行動力等を評価し、選考委員会で討議して5名を選ぶ。〈7月〉

山根敏子略年譜

- 1921・大正10年11月14日 父某處、母某世の間に敏子、兄之彦に次ぐ末子として北海道札幌区北13条西3丁目1番地に生れた。
- 1934・昭和9年4月 台北州立第一高等女学校に入学した。
- 1938・昭和13年4月 津田英学塾に入学した。
- 1940・昭和15年3月 マニラで開催の日本学生会議に参加した。
- 1941・昭和16年12月28日 太平洋戦争勃発のため津田英学塾を繰上げ卒業し台北の同窓の下に帰った。
- 1942・昭和17年4月 台北帝國大学文政学部文学科に入学し英文学を専攻した。
- 1944・昭和19年9月15日 戦局苛烈のため台北帝國大学を繰上げ卒業した。
- 1950・昭和25年3月 外交官候補生採用試験に合格した。
- 1950・昭和25年4月1日 外務省参事官に任ぜられ外務省研修所研修員を命ぜられた。
- 1950・昭和25年7月10日 ガリオア留學生として羽田出発、タインス・カレッジにてオリエンター・ソニオをうけた後ウヰーモン・ト大学の政治学を専攻した。
- 1951・昭和26年6月1日 この日附を以てウヰーモン・ト大学の課程を修了した。
- 1951・昭和26年11月16日 外務省条約局国際協力員職務を命ぜられた。
- 1951・昭和26年12月15日 外務省国際協力員第一候補職務を命ぜられた。
- 1952・昭和27年3月23日 在アメリカ合衆国日本領事館に配属となり外交官補を命ぜられた。
- 1952・昭和27年9月27日 在ニューヨーク国際連合日本政府代表部を命ぜられた。
- 1953・昭和28年3月6日 フォリカ合衆国において開催の阿片の生産制限に関する議定書の起草及び採択のための国際会議日本政府代表団員を命ぜられた。
- 1954・昭和29年4月1日 国際連合日本政府代表部に併任となった。
- 1955・昭和30年6月10日 サンフランシスコにおける國連十周年記念特別総会に野田國連代表の随員として出席した。
- 1955・昭和31年7月25日 帰朝を命ぜられた。
- 1955・昭和31年9月29日 午後6時30分カナダ太平洋航空機37号機でウヰンター・グレイ・空港を出発したが飛行機事故のため現地の朝8月29日21時45分、日本時間の3月30日18時45分にフランス半島のモールド・ペイ海岸で溺死した。
- 同日附を以て三等書記官に任ぜられ第六位に叙せられ第六轉寫室長を授けられた。

山根奨学基金奨学生願書

(奨学金交付願)

フリガナ 氏名			生年月日	年 月 日生	
在籍大学 又は大学院 (対応する方を○囲み)	大学 大学院	学部 研究科	科 専攻 修・博	年次在籍 年次在籍	
研究(卒論) テーマ	大学院生の場合出身大学(大学 学部 科)				
留学・海外 研修経験に ついて	期 間	学 校 名		国 名	
	年 月～ 年 月 留学・研修 (いずれかに○)				
現住所	〒		e-mail:	TEL ()	
通常時以外 の連絡先	〒			TEL ()	
在学におけ る課外活動 ・趣味				健康 状態	
現在受けて いる奨学金					
家族構成	続柄	氏 名	年 齢	勤務先・職名または職業	
一般財団法人 山根奨学基金 代表理事 飯野 正子 殿 私、別記理由により山根奨学基金の給与を受けたく、関係書類を添えてお願い申し上げます。 年 月 日				年 度	
本人署名 ㊟				平成 年度	
				受 付	

この願書により収集した情報は奨学生の選考以外には使用しません。

奨学金申込理由書・将来計画

Blank lined area for writing the scholarship application reasons and future plans.

平成 年 月 日

殿

筑波大学長
永田 恭介

推薦書

下記の者を、貴奨学生として適当と認め推薦いたします。

記

所属	筑波大学	学群 課程	学類 研究科	年次
氏名	_____			

推薦所見

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

指導教員等	所属	氏名	印
-------	----	----	---

家 庭 調 査 書

申 請 者	所属	学群 _____ 学類 _____ 年次 _____										
	学籍番号	_____					性別	男・女	現住所	〒 _____ TEL (_____)		
	フリガナ	_____										
	氏名	_____					家族住所		〒 _____ TEL (_____)			
家 族 及 び 所 得	就 学 者 を 除 く 家 族	続柄	氏名	年齢	職業	在職期間	勤務先名称	給与所得の収入金額(税込)	給与所得以外の所得金額			
		父				年		万円	万円			
		母					年		万円	万円		
		父または母 死亡・離別の場合 時期 (年 月) 理由 ()										
		主たる家計支持者無職等の場合 時期 (年 月) 理由 ()										
							年		万円	万円		
							年		万円	万円		
							年		万円	万円		
							年		万円	万円		
	別 居 者 に ○ 印	就 学 者	続柄	氏名	年齢	学校名	設置者別	学校種別	通学別	控除額		
本人					筑波大学	国立		※自宅 自宅外	万円			
						※国公立 私立	※小・中・高・高専・大学 専修(高等・専門)	※自宅 自宅外	万円			
						※国公立 私立	※小・中・高・高専・大学 専修(高等・専門)	※自宅 自宅外	万円			
						※国公立 私立	※小・中・高・高専・大学 専修(高等・専門)	※自宅 自宅外	万円			
家 庭 の 特 殊 事 情	特別控除項目		控除有無									
	障害者がある世帯		※有・無		続柄 () 氏名 () 手帳番号 ()			万円				
	その他											
本 人 の 状 況	家庭からの給付		月額 (千円)				認 定					
	アルバイト		月額 (千円) 内容 ()				総収入金額	① 万円				
	奨学金	受給中	月額 (千円) 団体名 ()				必要経費	② 万円				
		申請中	月額 (千円) 団体名 ()				特別控除額	③ 万円				
	その他の収入		月額 (千円) 内容 ()				総所得金額	④=①-②-③ 万円				
学 業 成 績	評 価	高等学校	5	4	3	2	1	平 均 値	収入基準額	世帯人数 人		
		大学(院)	A	-	B	C	-			⑤ 万円		
修得単位数または科目数								家計充足率	⑥=④÷⑤×100			

- (注) 1. 太線の枠内を記入し、※印は○で囲むこと。
 2. 「給与所得の収入金額」欄は、申請の前年1年間の収入金額を記入し、所得証明書、源泉徴収票(写)を添付すること。
 (父と母が給与所得者の場合は父と母両方添付すること。年金受給者の場合は年金振込通知書(写)。失業者は雇用保険受給資格者証(写)。
 3. 「給与所得以外の所得金額」欄は、申請の前年1年間の収入金額から必要経費を控除した金額を記入し、確定申告書(写)等を添付すること。
 (父と母が確定申告をしている場合は父と母両方添付すること。)
 4. 「家庭の特殊事情」欄について、障害者のいる世帯については障害者手帳(写)、その他については証明するものを添付すること。
 5. 「学業成績」欄については、1年次生(編入学生を含む。)にあっては出身学校の成績を記入(科目数で平均値を算出)し、成績証明書を添付すること。2年次以上の者にあっては、前年度までの成績(修得単位数で平均値を算出)を記入し、成績証明書を添付すること。